



“ガス窯作りのプロ集団・大築窯炉工業”の

2007・9月号

# 月刊 窯ナビ

必ず良いことがある人のために送る！

DAICHIKUのお得意様向けニュースレター

ウラ面も情報満載

【発行日】2007年9月15日 【発行人】大築窯炉工業 谷口浩司

〒309-1611 茨城県笠間市笠間2192-5 TEL0296-72-1444【ホームページ】<http://www.daichiku.jp/>

ユーザーさん登場 諏訪幸雄氏(陶芸工房スワ・前窯業指導所長)



ご愛用の台車式ガス窯0.4m<sup>3</sup>(DA04S)と

**【諏訪幸雄 略歴】**

- 1947年 茨城県常陸太田市生まれ
- 1969年 日立セメント株式会社入社
- 1971年 茨城県窯業指導所勤務
- 1990年 同技術指導部長
- 1996年 茨城県窯業指導所所長
- 2002年 皇太子殿下、同妃殿下行啓御案内
- 2003年 グリーンふるさと振興機構  
「陶芸の里づくり」支援で穴窯製作
- 2005年 茨城県工業技術センター副所長
- 2007年 退職「陶芸工房スワ」設立

ガス窯の調子はどうですか？  
調子いいです。焼き全体にばらつきがなく雰囲気も良く揃っていますね。  
弊社のガス窯の良いところはどこだと思いますか？  
いろいろな機能がついていて良い窯だと思います。  
弊社のガス窯を選ばれた理由は何ですか？  
窯業指導所時代にいろいろな種類の窯や様々なメーカーの窯を使用していました。灯油窯は  
停電すると(バーナーが)怖いし、左右のバーナー調整が難しいのでガス窯に決めました。薪を入  
れられる炭化機能がついていること、煙突の引き具合を楽に調整できることがいいと思いま  
した。これからは窯詰めがたいへんになるから楽な窯ということで、ガス窯の台車式を選びました。  
どれくらい焼かれましたか？  
もう50窯くらい焼きましたよ。本格的に始めたのは今年の7月からです。  
市の公共施設(1)で陶芸の講師をされているそうですが、  
月に4日、講師をしています。工房でも5人ほどロクロを中心に教えています。  
指導所での主なお仕事は？  
当初昭和40年代は粘土分析や釉薬調合、素地試験分析などでした。以前やきもの屋さんには40  
件ほどしかなく、逆に瓦屋さんは100件ほど県内にあったので当初は瓦屋さんが中心でしたね。  
これからの夢をおしえてください。  
すこしでも産地の手助けができればと考えています。笠間がやきものの産地であるということ  
強くイメージ付けさせたいと思います。長年培ってきた陶芸を通じて社会貢献したいですね。  
(1:常陸太田市春友手づくり工芸センター)  
最後に、弊社ニュースレター「月刊・窯ナビ」のご感想をおしえてください。  
ニュースレターは他にはないスタイルでいいと思いますよ。道具関係(カンナ)の記事はおもしろ  
かったね。友達にも(窯ナビを)送って欲しいよ。  
分かりました！お送りします。ありがとうございました！(インタビュー:秋元智香)

うれしい！楽しい！大好き！ダイチク！

ダイチクからのメッセージ

諏訪さんには窯業指導所長時代、いろいろとお世話になりました。多くのご指導をいただきまして本当にありがとうございました。“グリーンふるさと”さんの穴窯もお仲間とともに4ヶ月に1度の割合で焼いているとお聞きしました。退職後も陶芸を通じて地域に貢献されているご様子、今後のご活躍を期待いたします。

私にも“月刊・窯ナビ”を

将来独立希望の若手陶芸家の方、陶芸教室の生徒さん、陶芸愛好家の方、バックナンバーご希望の方もご連絡ください。当“月刊・窯ナビ”を毎月お送りいたします！ご希望のかたは今すぐ 0296-72-1444へ

お売りください！使わなくなった窯 その他陶芸用品 m( )m

使わなくなったガス窯がございましたら弊社にご連絡ください。責任を持って処分、もしくは修理して新しい方にマッチングいたします。電動ロクロや手ロクロ、陶芸用機械、釉薬原料、釉薬、粘土、カンナやヘラなどの小物、なんでも結構です。ご連絡くだされば担当者がお伺いいたします。また、(大きくて)古いガス窯の取り壊しをお考えの製陶所様、ご連絡ください！安全に格安で処分いたします。 :0296-72-1444まで

ユーザーの個展・展示会の情報募集

大築窯炉工業ではユーザーの個展・展示会の情報を募集しています。ダイレクトメール(DM)などの案内書ができましたら、弊社までお送りください。当ニュースレター「月刊・窯ナビ」やホームページ上でご紹介させていただきます。グループ展や小さなイベントでもOKです。どしどしお寄せください。費用は一切かかりません。

お客様に学ぶ今月の格言！

「陶芸はいつまでも続けられるすばらしい仕事だ！」

陶芸羅針盤 山中写真館

PHOTO STUDIO  
YAMANAKA  
since 1919



個展や展示会用DM、イベント用チラシ、ポスター制作、各種記念写真など写真や印刷に関することならなんでも相談OK!な写真館です。山中氏は特に若手陶芸家に信頼が高く、無理をきいてくれる兄貴分的存在！個展になったら即 0296-72-0164

## ユーザーさんの個展情報



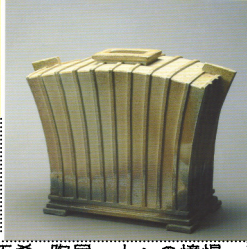
井上 豊作陶展 2007年9月31日(金)～9月10日(月)



井上豊作陶展  
ギャラリー 久呂呂3F  
千葉市中央区中央3-4-10  
TEL043-224-5251

### 一土への憧憬 大高正希 陶展

2007年9月8日(土)～9月24日(月)



大高正希 陶展「一土への憧憬」  
kyohan six galleryにて  
栃木県芳賀郡益子町益子706-2  
TEL0285-72-4444



西村俊展

西村俊展  
もえぎ城内坂店  
栃木県芳賀郡益子町城内坂150  
TEL0285-72-6003



沼野秀章展  
陶庫  
栃木県芳賀郡益子町城内坂2  
TEL0285-72-2081

### 庄司人志さんの初個展

「器の店・櫛」にて  
世田谷区奥沢6-33-14 もみの木ビル2F  
TEL03-5760-1275

## 私の健康法～その2～「鼻うがい」編



今月は「鼻うがい」です。効果・効能はさておき、まずやり方からご説明いたします。1、コップ1杯の塩水を作ります。濃度は1%前後、お吸い物くらいです。2、これを片方の鼻からすすって口から出す。次にもう片方の鼻からすすって口から出す。3、残った塩水で普通にうがい。これで終了。簡単です。注意点は、一気に吸い込まない。両方から一度に吸い込んでもかまいませんが、お蕎麦を食べるようにズルズルとやったほうが、恥ずかしさを隠せます。生理食塩水とほぼ同じ塩分濃度なので鼻にツンとくることはありません。終わったあとは、「なるほどー」と思うでしょう。勇気のある人は出たものをよく観察すると良いでしょう。この作業を毎日帰宅後に行います。鼻うがいについては医療機器として1万円前後で売っているようですが、健康な人が健康法のひとつとしてやるのであれば塩水で十分だと思います。私はこれを入浴中や帰宅後に洗面台でしています。最後に効能です。多分、風邪を引きにくくなったのでしょうか。花粉症にもいいと思います。鼻炎や蓄膿にも効果がありそうです。最近では塩加減が鼻で分かるようになりました。いずれにせよ塩水なので簡単ですし、少なくとも害はなさそうです。お試しあれ！

## 真夏の窯焚き～後編～

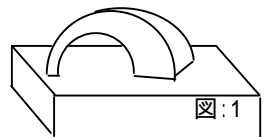
8月5日曜日、私は前日から焚いているガス窯のために工場へやってきた。バーナーの空気量をいつもより少なくしてみた。エア弁を右に回す。炎のゆらゆらとした影がコンクリートに映り始めた。そうとう赤い炎になっていると想像できる。これだと温度は上がらない気がする。今度は45度くらい左に回して空気量を増やした。影は消えた。ここに決めた。炎の色は火足の半分くらいが赤いような感じ。これでバーナーの炎もだいぶ還元炎になっているはずだ。次に還元の具合(濃度)を調節する作業。煙突わきの色見穴で還元炎の長さを見ながら、ドラフトにレンガ片をひとつ置いて還元炎を8センチ前後に短くした。これでトントン温度は上がるはず、温度計で具合を見て、また、新聞を見る。30分後窯の様子を見に行くと、995度。少し上がり方が鈍い気がしたのでガス圧を2Kpa上げ12Kpaにした。もう一度還元濃度を調節して窯場を離れた。1時間半後の10時半、温度は1100度、ほぼ1分当たり1度のペース、還元炎もOK、また1時間半後の12時、1150度、だいぶペースダウンしてきたのでガス圧を今度は16Kpaに。還元濃度を調節して昼食にした。窯焚きもこの辺まで来ると温度の上り具合が気になって仕方ない。時計の秒針と温度計を見て窯焚き終了の時間を予想する。それにしても暑い！一緒に焚いている電気窯は1235度で練らしに入っている。じっとしていても当然暑い。陶芸家は真夏にはこういう作業をしているのかと思うと感心する。こうして1227度、ゼーゲル8番、21時間でほぼ完倒したので火を止めた。窯出しは明後日である。



扉の色見から出る還元炎

## ゼーゲルコーンについて～基礎編～

窯の温度を測る道具として一般的なものには「熱電対(ねつでんつい)」と「高温錐(こうおんすい)」があります。高温錐にはドイツのゼーゲルコーン、アメリカのオルトンコーン、イギリスではスタッフードシェア・ゼーゲルコーン、フランスではフランス・ゼーゲルコーンを使っています。ゼーゲルコーン(SK)は各国とも同じ温度表示ですが、オルトンコーンは指示温度が少し違ってきます。このような高温錐は釉薬や素地と同じような組成の調合物でできています。小さな三角錐(コーン)で規定の温度で軟化するようになってきています。その温度は番号によって示されています。例えばゼーゲルコーン8番(SK8)は1,250度、SK9は1,280度といった具合です。この指示番号は三角錐が高温となりガラスとなり軟化して曲がって三角錐の先端が支えのための台に着いたときの温度に換算できることを示しています。(図:1)



### 【ゼーゲルコーンの溶倒温度と温度計の表示温度が違う理由】

ゼーゲルコーンなどの高温錐は素地が熱によって軟化する現象を利用しているため、加熱速度によってガラス成分のできる量が変わってきます。つまり、コーンが軟化し曲がる条件は温度だけではなく、熱の量も示しているといえます。これが窯で焼成する際にゼーゲルコーンが重視される理由といえます。次号ではこれについて詳しく説明いたします。

(参考文献:陶芸のための科学・素木洋一著)



図:2 正確なゼーゲルコーンの立て方

## 編集後記「あとかんげん」

いよいよ運動会の季節となってきました。また、いろいろな場所で大きな陶芸イベントや個展が盛んに催されるようです。笠間でも「笠間焼フェア」「匠のまつり」といった恒例行事に加えて、今年の「笠間の菊まつり」は100回を迎え、「茨城ゴールデンゴールズ記念試合」や「浅野温子語り舞台」、「小椋佳コンサート」、「假屋崎省吾の世界」ではフラワーデモンストレーション&トークショーといった豪華なイベントが予定されています。また、やきもの通り商店会では「第1回 やきもの通り登り窯まつり」が12/7～9まで奥田製陶所さんの登り窯を使って行われます。伝統の登り窯に火が入り名作が期待できます。低料金でイベントにも参加できるので興味のある方は問合せ必須といえるでしょう。(TEL:0296-72-0717奥田製陶所) 秋から冬にかけて多くの方々笠間や益子に来られることを願っております。

